

カリキュラムマップ (2022年度以降)

ディプロマポリシー	D1: 人間に対する理解と倫理観を持ち、人々の喜びや悲しみ、痛みや苦しみを分かちあえる感性を身につけ、自己の持てる力を差し出せる。	D2: 多様な個性やさまざまな考え方を尊重し、他者との人間関係を築くことができる。	D6: 生涯を通して自己研鑽する姿勢と、創造的に取り組む力を持ち、看護学の発展に寄与するための基礎的能力を身につけている。
学位授与方針	D3: 人間を取り巻く自然、社会、文化関係を総合的な視野から思考し、社会情勢の変化や科学技術の発達に関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢を身につけている。	D4: さまざまな健康状態の人々に関わることのできる専門知識・技術を修得し、個別的な看護ニーズを見だし、根拠に基づいた実践ができる基礎的能力を身につけている。	D5: 看護専門職者としての誇りと責任感を持ち、看護の果たすべき役割を追究し、保健・医療・福祉等関連領域の人々と協働できる力を身につけている。

4年	8	卒業研究															災害看護学*	死生看護学*					
	7	アカデミック イングリッシュ*	高等教育コンソーシアム宮 崎コーディネイト科目*	人間常態学 IV*	精神看護論 演習*	母性看護論 演習*	成人看護論 演習*	老年看護論 演習*	看護管理学	国際看護論*	看護教育学	家族看護学	臨地実習III										
	6	看護英語*	放送大学の 外国語科目のうち で本学で開講され ない外国語科目 の科目	人間常態学 I-3	医療・看護 情報	看護学原論 演習*	公衆衛生 看護論演習	在宅看護論 演習*	小児看護論 演習*	臨地実習II (精神)	臨地実習II (地域)	臨地実習II (在宅)	臨地実習II (母性)	臨地実習II (小児)	臨地実習II (成人)	臨地実習II (老年)	看護研究■						
	5	看護英語*	高等教育コンソーシアム宮 崎コーディネイト科目*	人間常態学 III	疾病論・ 治療論I	臨地実習I	精神看護 方法II	母性看護 方法II	小児看護 方法II	在宅看護 方法II	母性看護 方法I	小児看護 方法I	成人看護 方法IV	老年看護 方法II	老年看護 方法I	看護研究■							
3年	4	情報科学 演習II*■	指導論*	英語IV■	人間常態学 III	疾病論・ 治療論I	臨地実習I	看護方法 II-2	精神看護学 概論	公衆衛生 看護方法	母性看護学 概論	小児看護学 概論	成人看護 方法III	老年看護学 概論	看護研究■								
	3	ライフスポーツ II*	英語III■	看護疾病論 III	人間常態学 II-2	人間病態学 I	看護方法 II-1	精神看護学 概論	公衆衛生 看護方法	在宅看護 方法I	母性看護学 概論	小児看護学 概論	成人看護 方法III	老年看護学 概論	看護研究■								
2年	4	科学入門*	宮崎の自然II	社会学入門*	基礎自然 科学II*	生体と環境 科学	宮崎の自然I	生物学入門	人間社会と 規範*	人間関係論	基礎自然 科学I*	生命科学論	宇宙地球 科学	看護疾病論 II	人間常態学 II-2	人間病態学 I	看護方法 II-1	精神看護学 概論	在宅看護 方法I	成人看護 方法I	看護研究■		
	3	英語II■	看護疾病論 II	人間常態学 II-2	人間病態学 I	看護方法 II-1	精神看護学 概論	在宅看護 方法I	成人看護 方法I	看護研究■													
	2	看護英語*	看護疾病論 I	人間常態学 I-2	人間病態学 II-1	精神保健学	看護方法 I-2	看護学原論 II	公衆衛生 看護学概論	在宅看護 学概論	成人看護 学概論	看護研究■											
1年	1	看護英語*	看護疾病論 I	人間常態学 I-2	人間病態学 II-1	精神保健学	看護方法 I-1	看護学原論 I	公衆衛生 看護学概論	在宅看護 学概論	成人看護 学概論	看護研究■											
	1	看護英語*	看護疾病論 I	人間常態学 I-1	人間病態学 II-1	精神発達学	看護方法 I-1	看護学原論 I	公衆衛生 看護学概論	在宅看護 学概論	成人看護 学概論	看護研究■											

領域	自然界と看護	人間社会と看護	個の尊重と看護	文化と看護	看護人間学 総論	看護人間学 I	看護人間学 II	看護人間学 III	基礎 看護学	精神 看護学	公衆衛生 看護学	在宅 看護学	母性 看護学	小児 看護学	成人 看護学	老年 看護学	看護統合
分野	普遍分野				専門基礎分野				専門分野								

カリキュラム ポリシー 教育課程 の編成・実 施 方針	CP1: 人間についての総合的理解を深め、自己の人間性を豊かにする幅広い教養と、状況に対応できる判断力を身につける。	CP2: 看護の対象である人間の身体・精神・社会関係をより詳しく見つけ、これらの仕組みについて理解を深める。	CP3: 看護の基盤となる考え方と方法を学び、看護の対象を、地域社会の中のある家族の一員として個別的なライフスタイルを送る人間として捉え、看護の専門性を人々の健康を守るネットワークの中に位置づけて理解する。また、学修の節目ごとの実習を通して多様な価値観を尊重し、他者との豊かな人間関係を築く力を養い、看護者としての自らの成長を自己評価し、発展させていく。	CP4: 各分野の学修を統合。看護の実践能力を高め、生涯にわたる看護学を追究・発展できるようにする。また、国際的視野を身につけるため、異文化を理解する。
	CP5: 物事の本質を追究する姿勢を育み、課題解決に取り組む意味や面白さを経験し、将来にわたる研究的態度が身につけられるように、科目間、分野間で連携した教育を行う。	CP6: 到達目標に照らして自己評価しながら学修する双方向授業を基本として、学生参加型の少人数グループワークや視聴覚教材・教育メディアを活用した授業を行う。専門科目では(自己学習-グループ学習-個別指導-自己評価)システムを取り入れ、主体的な学修を推進する。		

ナイチンゲール看護論を基盤に、生命の尊さを知り、人々の生命力を高め、心に働きかけ、人々のセルフケア・セルフコントロールを支援できる看護専門職者の育成をめざし、科学的なものの見方・考え方を育て、体験を通して看護学の概念と実践的能力を段階的、統合的に身につけることができるカリキュラムを編成。学生の主体的な学修を推進する教育方法を取り入れ、学生のニーズをふまえて到達度が高まる環境を整える。各授業科目の評価基準、基準をシラバスで明示し、厳格で客観的な成績評価を行う。